

文章を理解したことに基づいて
自分の思いや考えをもち表現する児童の育成
～国語科文学的な文章における個別最適で協働的な学びを通して～

糸満市立高嶺小学校教諭 沖 田 亜 梨 沙

I テーマ設定の理由

「間違っているかもしれないけど…」これは、「あなたの意見や考え、感想を聞かせてください」という私の問いかけに対して多くの児童が発言の前置きとして使う言葉で、自己の考えや意見を伝える際の児童に不安な様子がみられた。その違和感の原因は、「教室は間違ってもいい所」と言いつつ無意識に正解を求めている教師主導の効率的な指導方法にあるのではないかと考える。

実際に文学的な教材を扱った授業を振り返ってみると、教師主導の授業を行ってきたということが見えてきた。細かな指示や時間制限付きの思考タイム。一斉に共有する時間の設定。全員が理解できるようにと細かく解説してきた指導内容。これらが、冒頭に挙げた言葉に繋がるのだと反省する。このような教師主導の授業では、児童が思いや考えをもつことも、表現することもままならない。奈須正裕¹は、「子どもたちは一人ひとりさまざまに違っています。」「違っていることが不利にはたらないように、学校と教師は十分な策を講じなければなりません。」と述べている。児童一人一人の個性がそれぞれ異なるように、自分の思いや考えも表現の仕方もそれぞれ異なる。「違っていていいし、違っていることが、その子らしく学びその子らしく育つこと」と述べているように、児童自身が自分らしく学べる授業づくりが必要だと考える。

そのためには、これまでの教師主導の授業に、多様な児童の個性に応じ、意欲を高め学び方を児童自身に委ねるなどの学び合いを取り入れた学習者主体の授業の工夫が肝要だと考える。これまでの学びを活かしながら、児童に目的意識をもたせ、「学び方」「時間」「表現方法」を児童自身に委ねる学習者主体の授業にしたい。この学習者主体の授業を「個別最適な学び」と捉え、検証を進めていく。また、授業作りをする上で「個別最適な学び」が孤立した学びにならないよう、「協働的な学び」を一体化させて進めていくことも大切だと考える。「協働的な学び」は、自分の考えと他者の考えを比較・分類・関係づける等、自分の考えを更に確立していくために必要な学びであることから、毎時間常に情報交換しやすい場面を設定する。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を繰り返し行わせることで、文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもち表現することができるだろう。そのための個別最適で協働的な学びを一体化させるための教師の役割・支援について考えていく。

令和3年教育審議会答申²では、Society5.0時代において子ども達が経験する変化は、これまでの延長線上にない劇的な変化が予想され、今後の学校教育において、資質・能力の育成を着実に進めることの重要性が示された。また、「個別最適な学び」と、子ども達の多様な個性を最大限に活かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが重要であると述べている。

そこで本研究では、国語科文学的な文章において「学び方」「時間」「表現方法」を児童自身に委ね、その学びが児童自身にとって最適となるよう調整する「個別最適な学び」として自由進度学習に取り組む。そして、対話を通して他者の感じ方などのよさに気づき、自らの考えを確立させる「協働的な学び」の場面へ導くための掲示を工夫する。この二つの学びを一体的に充実させることによって、文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもち表現する児童の育成ができるのではと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 研究の目標

国語科文学的な文章における個別最適で協働的な学びを通して、単元内の一部を自由進度にすることで、文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもち表現できるよう実践研究を行う。

Ⅲ 目指す児童像

個別最適で協働的な学びを通して、自分の思いや考えをもち、表現できる児童。

Ⅳ 研究方法

- 1 小学校学習指導要領等を踏まえ、個別最適で協働的な学びについて先行研究を行い、実践授業の計画を立てる
- 2 個別最適で協働的な学びを取り入れた国語科の授業実践を行う
- 3 事前・事後のアンケート分析、児童の行動や変容などから、目指す児童像を育成することができたか確認し、次の実践に向けて生かす。

Ⅴ 研究内容

- 1 「文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもち表現する」について

- (1) 「文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもつ」

小学校学習指導要領解説国語編（以下『解説国語編』と表す）「C読むこと」の領域では、「考えの形成」について「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを形成すること」と示し、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、考えをまとめていくこととされている。このことから、作品を読む際、「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。C(1)イ」「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。C(1)エ」を行うことが文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもつと捉える。

国語科文学的な文章の学習において令和4年度版『『問い』が生まれる授業サポートガイド』³

「子どもが思いや考えをもつ姿」から、自分の考えをもつことを「やってみたい、しらべてみたい、解決したい」と捉える。他者と交流し「問い」が生まれ自分の考えをもつことを「説明したい、質問したい、整理したい」と捉える。学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつことを「～場面でもやってみたい、もっと考えたい」と捉える。これらの児童の姿が「自分の思いや考えをもつ」だと捉える。

- (2) 「表現する」

国語科における表現とは、言語活動を通じて行われる。これまでの基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、内容に即して思考・判断したことを、話し合いやレポートの作成、プレゼンテーションその他の多様な活動を通して表現する。『解説国語編』第3学年及び第4学年「C読むこと」の言語活動例から、「物語のあらすじや登場人物の行動や気持ちなどを説明したり、それらを基に考えたことや具体的に想像したこと等を文章にまとめたり発表したりすること」⁴とあることから上江洲朝男は、「国語科『読むこと』の『思考・判断・表現』の評価は、児童が思考・判断したことを見取るための表現として『書く』か『話す』の言語活動での評価となる。」⁵と述べている。本授業では、自分の思いや考えを伝え合う表現方法を児童自身が選択する「学習の個性化」を行う。教師が、既習の言語活動（リーフレット、紙芝居、レポート、プレゼンテーション、ペープサート、その他）の見本を作成し提示する。このことから児童が言語活動を選択しそれぞれに合った方法で表現しようとすることを「表現する」と捉える。

(3) 自由進度学習⁶

個別最適な学びにするために、自由進度学習を取り入れる。奈須（2022）は、「個別最適の視点からまず大切になってくるのは、教師の都合やタイミングで教えるのではなく、一人ひとりの子どもの都合やタイミングで学べるようにする」⁷と述べている。本研究では、一人一人の都合とタイミングで学べるように自由進度学習に取り組む。自由進度学習は、児童が取り組むべき課題と進度を自由に決める学習スタイルである。自由進度学習に取り組むことで、学習がゆっくりな児童はじっくり考える時間を確保できるようにし、はやい児童は自分のペースで学習を進めることで新たな疑問点やさらに知りたい点などを見いだすことができるようにする（図1）。自由進度学習に取り組むことで、令和4年度版『問い』が生まれる授業サポートガイド「子どもが思いや考えをもつ姿」つまり文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもつ姿を目指していく。

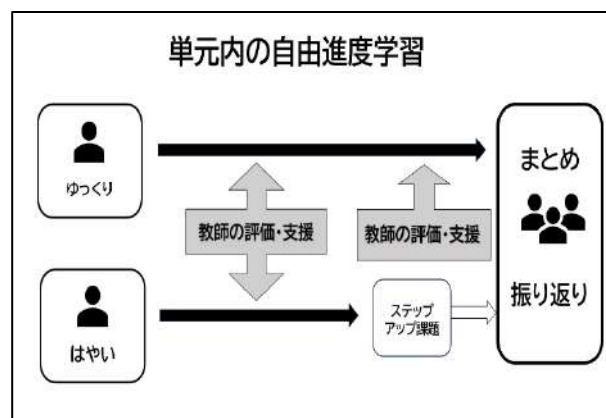


図1 自由進度学習のイメージ図

2 個別最適で協働的な学びについて

(1) 個別最適な学びにおける「指導の個別化」と「学習の個性化」

中央教育審議会（令和3年）では、個別最適な学びについて「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理され示されている。「指導の個別化」は「一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めること」とある。「学習の個性化」は、「個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味し、その中で児童生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったらよいか考えていくこと」とある（図2）。

本研究では、「指導の個別化」により児童が学び方を選択できるようにし、「学習の個性化」として表現方法を選択できるようにする。教師は、検証授業導入の際に学び方の選択肢（ワークシート、全文シート、ノート、ロイロノートその他）と表現方法の選択肢（リーフレット、ペープサート、ロイロノート、紙芝居その他）を提示する。学習の見通しを立てることで、自らの学びを調整していくようにする。

(2) 協働的な学び

個別最適な学びが孤立した学びにならないよう、協働的な学びを一体化させて進めていく。協働的な学びは、自分の考えと他者の考えを比較・分類・関係づける等、自分の考え

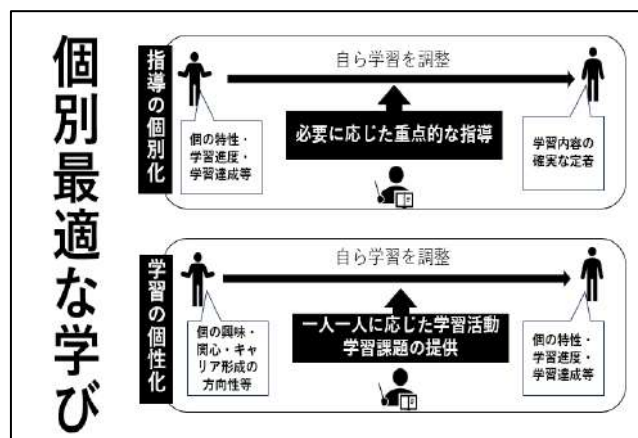
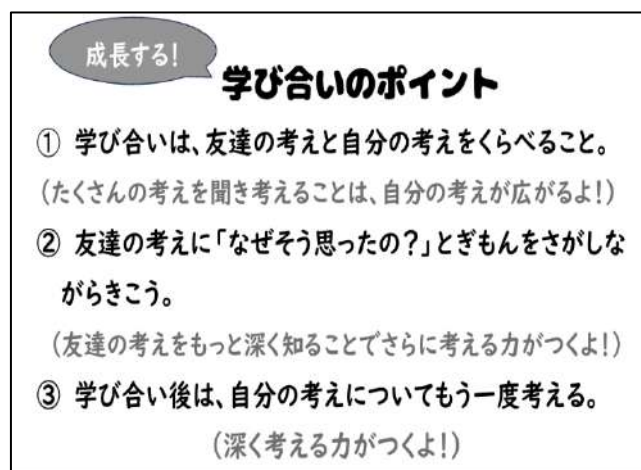


図2 文部科学省「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化（イメージ）を基に作成した「個別最適な学び」イメージ図



資料1 学び合いのポイント

を更に確立していくために必要な学びである。これまでは、教師の都合とタイミングで共有の時間を設定していたため、中途半端な深まりのない共有となっていた。これでは、協働的な学びになりにくい。そこで本研究における協働的な学びでは、「学び合いのポイント（資料１）」を常時揭示し、児童自身が必要なタイミングで児童同士や教師と対話できるようにした。その対話により、正解ではなく現時点での自分なりの考えを表現することを大切にした。

(3) 個別最適で協働的な学びにおける教師の役割・支援

「個別最適な学び」を考える際に桂聖は、「まず、子どもが何のためにやっているかということを考える」⁸と述べている。児童それぞれの目的意識（自分の行動をどのような目的で行うのかを明確にすること）が異なっていたとしても、「何を学ぶのか」という目的を児童自身が明確に捉え、「何のために読んでいるのか」「何のために相談したいのか」ということを自覚しながら学習を調整することが大切だと考える。そこで本研究では、個別最適で協働的な学びにおける教師の役割・支援についてまとめた（表１）。

表１ 教師の役割・支援

① 学習の目的（ゴール）を明確にさせること。
② 児童が自らの学びに対して目的意識をもたせること。
③ 正しい見取りと適切な支援を行うための教材研究を行うこと。
④ 児童一人ひとりの学びを認め、寄り添うこと。（適切な支援）
⑤ 学習の成果を仲間に伝え、共有するために表現させること。（適切な支援）
⑥ 個人－共有－個人といった活動が自然に広がる支援を行うこと。
⑦ 児童が自己の学びについての振り返りを大切にすること。（前時からの・次時への繋がり）

小学校「個別最適な学び」と「協働的な学び」を繋ぐ国語授業 青木（2022）を基に作成

評価の方法としては、評価シート（資料２）を活用し、まず評価Cと予想した児童から支援を行う。次に机間指導をしながら評価Bの児童の中に支援が必要な児童はいないかみとり、支援する。また、評価Bの児童に評価Aに引き上げる支援も適宜行う。

【評価シート】～豆太の成長について想像したことを伝え合おう～「モチモチの木」								
名前	知	思判断①	思判断②	主	名前	知	思判断①	思判断②
1					13			
2					14			
3					15			
4					16			
5								
6								
7								
8								
9					21			
10					22			
児童の評価規準				児童名と評価欄				
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ		①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。C(1)エ ②「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて、想像している。C(1)オ		①の考えと比べながらめ直して考え、これまでの学習を活用し、自分が選択した言語活動で思いや考えを伝え合おうとしている。				
児童の様子（良い点・課題点）・授業の振り返り								
								授業の振り返り

資料２ 評価シート

Ⅵ 研究の実際（授業実践）

1 単元名

「豆太がどのように成長したか想像したことを伝え合おう」

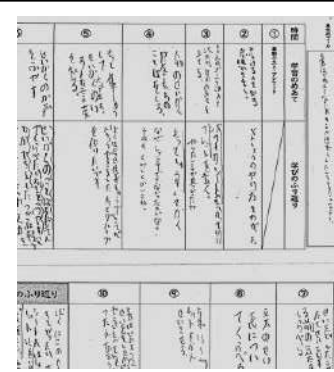
2 教材名

「モチモチの木」（東京書籍「新しい国語 三」）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。C(1)エ ②「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて、想像している。C(1)オ	ねばり強く友だちの考えと比べながら自分の考えを見つめ直して考え、これまでの学習を活用し、自分が選択した言語活動で思いや考えを伝え合おうとしている。

4 単元の指導計画・評価計画（全 11 時間）

		学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準【観点】(方法) 教師の役割・支援①～⑦ 個: 個別最適な学び 協: 協働的な学び
テスト	1	・事前テスト 「わにのおじいさんのたからもの」 ・事前アンケート	・個別の支援に繋げる。	【思・判・表】① C1 エ 【思・判・表】② C1 オ
単元の見通し 構造と内容の把握	2 ・ 3	1 学習のゴールを知り、単元の見通しをもつ。 ①学習課題を知り、単元で身に付けたい言葉の力を確かめ、見通しをもつ。 ②これまでの学習を振り返り、学習の進め方と言語活動について知る。 2 教材文全体の構成を捉え、個々の学びを選択する。 ①小見出しから全体の構成を捉える。 ②学習を振り返り、学習の進め方と言語活動について知り、選択する。 学び方の選択肢（指導の個別化） ワークシート A, ワークシート B, ロイロノート, ノート, 教科書, 全文シート, その他 表現方法の選択肢（学習の個性化） プレゼン（ロイロノート）, ペーパーサート, リーフレット, 紙芝居, その他	・「自分で表現する方法を選び、自分の思いや考えを伝え合う」という学習のゴールと学習の進め方について確認する。 ・初発の感想から「問い」を持たせる ・物語文の全体の構成と、物語の設定を確かめさせる。 ・学習の進め方について確認する。	教師の役割・支援①, ② 個 自分の経験・知識をもとに考え選択している。(学習の個性化) 学び方の選択肢の提示 ワークシート A ワークシート B 全文シート 
構造と内容の把握 精査・解釈 考えの形成 共有	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	自由進捗学習 1/22 11 事後テスト・アンケート 1/19 10 豆太はどのような成長をしたのか 想ぞうしたことをつたえ合おう。 1/18 9 発表する方法を決めて、発表の準備をする。 1/17 8 1/17 7 場面と場面について自分の言葉でまとめる。 1/16 6 豆太の成長をくらべ 1/15 5 豆太の行動や様子を教科書から見つけ（理由も書く） 1/14 4 豆太の気持ちや考えを教科書から見つけ（理由も書く） 1/13 3 単元のゴールを決め、学習のめあてを立てる。 1/12 2 学習の見通しをもち感想を書く 1/11 1 事前テスト・アンケート 12/22 「モチモチの木」単元計画表	学習活動	児童が自らの言葉で表記した単元計画表 
		3 豆太の行動や様子から気持ちについて自分の考えをもつ。 ①学習課題に向けて自分が選択した方法で豆太の気持ちを読み取る。 ②困ったり、友達の意見を聞きたくなったりしたら、自分のタイミングで共有する。	・教材文の叙述から、自分の考えとそう考えた理由も考えさせる。 ・必要であれば自分のタイミングで共有しても良い事を確認する。	教師の役割・支援 ③, ④, ⑥, ⑦ 【知・技】 (指導の個別化で選択したツール, 言語活動, 観察) 個 自分で選択した方法で豆太の気持ちを読み取る。(指導の個別化) 協 自分の考えと友達の考えと比べ、自分の考えを広げている。
		4 場面と場面を比べ、豆太の気持ちの変化について自分の考えをもつ。 ①いくつかの場面を取り上げ、豆太の気持ちを比べる。 ②場面の違いについて自分の考えをもつ。 ③「話したい」「友達の考えを聞きたい」と思ったら、自分のタイミングで共有する。 ④共有後は、自分の考えを見つめ直す。	・登場人物の変容が分かる場面を取りださせ、何がどう変わったのかということをもとめさせる。 ・適宜共有をさせ、自分の考えと友だちの考えを比べながら聞いたり、質問したり、感想を述べたりすることを確認する。	教師の役割・支援④, ⑥, ⑦ 【思・判・表】② (指導の個別化で選択したツール, 観察) 個 豆太の気持ちの変化場面同士を比べて自分の考えをもっている。 協 友達の考えに疑問をさがしながら聞き、さらに考えを広げている。

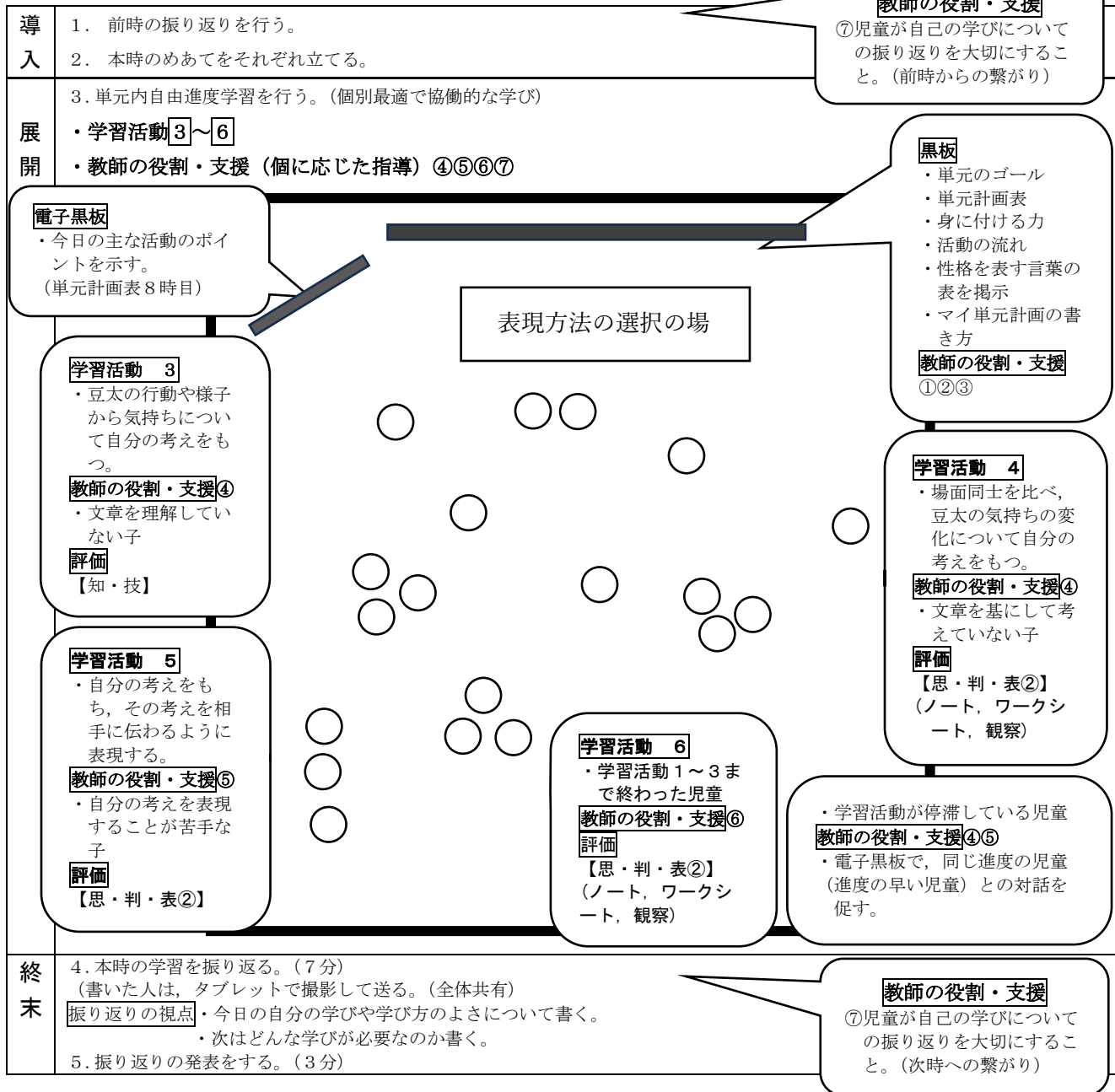
共 有 考 え の 形 成 共 有 テ ス ト	8	5 自分の思いや考えをもち表現する。 ①自分の考えを、選択した言語活動で表現する。 ②「話したい」「友達の考えを聞きたい」と思ったら、自分のタイミングで共有する。 ③共有後は、自分の表現に活かす。 言語活動（学習の個性化） プレゼン（ICT：ロイロノート）、 ペープサート、リーフレット、紙芝居  6 発展課題に取り組む。 ①他の物語文を読む。 ②文章を理解したことに基づいて感想をもつ。 ・自分の考えを言語活動で表現させる。 ・適宜共有をさせ、自分の考えと友だちの考えを比べながら聞いたり、質問したり、感想を述べたりすることを確認する。  友達や教師のお手本を見て、どの言語活動で発表方法を検討している児童。	教師の役割・支援④，⑥，⑦ 【思・判・表】① （ワークシート，言語活動，観察） 【主】 （観察，ノート振り返り，言語活動） 個 自分の考えを表現している。 （学習の個性化） 協 友だちの考えと比べながら聞いたり，学び合ったりしている。  学び合っている児童。
	9	7 自分の考えをもち、その考えを相手に伝えるように表現する。 ①グループ，全体で発表する。 ②自分の考えを相手が分かるように伝えることができたのか振り返る。 ・友だちの考えのよさに気付かせる  録画した動画を使って発表した児童。 一人ずつ5～6人のグループで発表した。	【主】 （言語活動，観察，発表，対話） 個 友だちの考えと比べながら自分の考えを見つめ直して考えている。 協 友達の考えのよさに気付いている。 
	10	8 自分の考えをまとめ、単元を振り返る。 ①単元全体の振り返りをする。 ②発表する。 ・身に付けさせたい力を確認し、単元全体を振り返らせる。 ・個別最適な学びで考えをもち、協働的な学びで考えが変容したことについて意識できている児童の文章を中心に、全体で考えの共有を行う。	教師の役割・支援⑦ 【思・判・表】② （振り返り）
	11	・事後テスト「モチモチの木」 ・事後アンケート	【思・判・表】①C1 エ 【思・判・表】②C1 オ

5 本時の指導（8/11 時間）

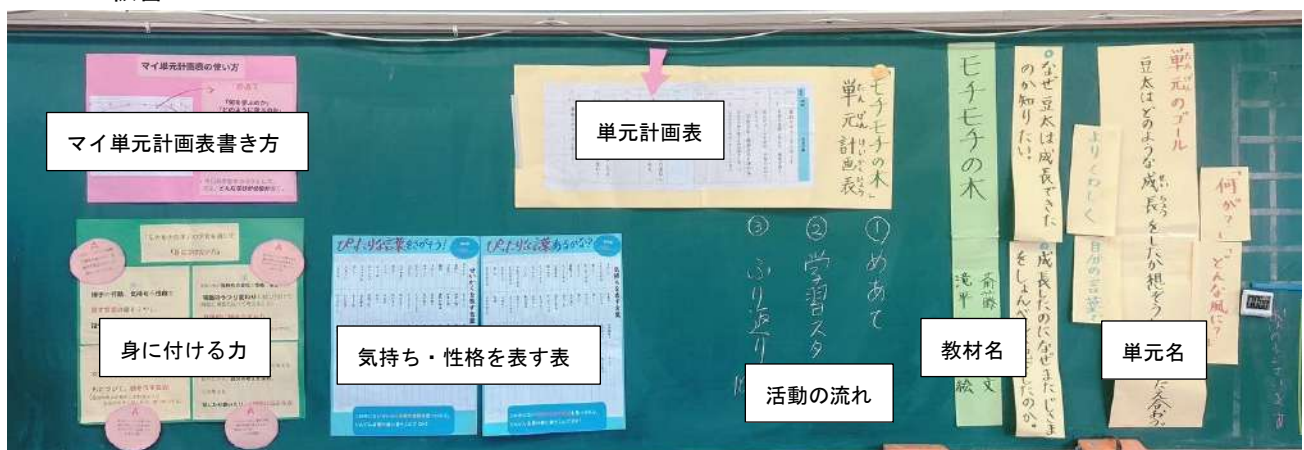
(1) 本時のねらい

個別最適で協働的な学びを行い、豆太の気持ちの変化や性格、情景について、場面同士を比べて具体的に想像し、自分の思いや考えをもち表現することができる。

(2) 本時の展開



板書



6 実践のまとめ

(1) 個別最適な学びの有効性

導入時に、自分らしい学び方を自分で選択することと表現方法も自分で選択できることを確認した。児童が自らの学びを決定し自覚できるように選択させた（資料3）。単元のゴール「豆太はどのような成長をしたのか想像したことを伝え合う」とし、11時間の中の第4～8時間の計5時間を自由進度学習として設定した。児童は、文章を読んで理解したことを基に考えたことを児童自身が選択した学び方で読み取りを行った。児童の学びの様子を見ると、「豆太は、小犬みたいに体を丸めて、表戸をふっとばして走り出した。寝間着のまんまはだして、半道あるふもとまで」という叙述から「深夜に一人で村まで行けた勇気のあるすごい子」と豆太の性格を考え、その理由（解釈）を「勇気のない子は、立ち止まるはずなのに豆太はそれでも止まらなかったから」と記述している（資料4：ロイロノート）。このように、理解したことに基いて自分の考えを書いている児童は、24人中18人であった。

学び方は、途中で変更することも可能なことから、変更したり2つ（教科書に書き込んでワークシートAでまとめる等）を併用して使ったり、学習内容に合わせて場所を選択したり一緒に学びたいメンバーを決めたりする等、学習を調整しながら活動を進めていた（資料5）。

豆太の成長をワークシートにまとめた後、表現方法を各自選択し活動を進めた。児童Rは、豆太について分かったことをワークシートにまとめ、伝え合うためにペープサートを作成し裏面にシナリオを描いていた。児童Rは、お絵描きや工作がとくであるため、ペープサートを作成する活動に多くの時間を割いていた。児童Rのワークシートと学習の個性



資料5 学習内容で場所を選択する姿

モチモチの木

○ 自分らしい学び方を選ぼう！

・豆太の成長をくわしく読んだり、自分の言葉でせつめいにするための学習方法

- 1 ワークシート A
- 2 ワークシート B
- 3 教科書とノート
- 4 教科書に書き込む
- 5 全文シート

○ 伝える方法を選ぼう！

・分かったことを、相手に分かりやすく伝える発表方法

- 1 リーフレット
- 2 紙しばい
- 3 ロイロノート
- 4 ペープサート(ペーパーパペットシアター)
- 5 その他()

資料3 個別最適な学びシート

深夜中に、一人で、村まで行けた勇気のあるすごい子

考え

豆太は、小犬みたいに、体を丸めて、表戸をふっとばして走り出した。寝間着のまんまはだして、半道あるふもとで

叙述

怖くても、痛くても、深夜中でも、一人で行けたから勇気のない子は、立ち止まるはずなのに豆太は、それでも止まらなかったから。だから、光るモチモチの木が見れた。

解釈

資料4 児童Kのロイロノート

・豆太のゆうきがーしゅんでせいちようしたし、豆太のよのこわいところがブワッってなくなった。

学習の個性化

・豆太はよく出かけることすらできないし、せつんにだっていけない、おくびょうだしわがりがだし、じぶん一人でトイレにいくゆうきすらでない。じさまといっしょにトイレにいくほどこわいしなさない豆太。ほんとうはじさまをよばないで、一人でいきたいとおもっている。

・豆太は大好きで大切なじさまのいのちをたすけるぞとつよいきもちをもった豆太。じさまのいのちをすくっていしやさまにふくつうをなさせ、やりとげた。よるそとでがんばってがまんした豆太。

資料6 学習の個性化で見た児童Rの変容

化後の内容を比べて見ると考えをより多く言語化し、より詳しく自分の言葉で表現することができていた（資料6）。

個別最適な学びについての検証前・検証後アンケート、振り返りシート、インタビュー調査を基にして文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもち表現できたか捉えていく。検証前・後のアンケートから、「自分の考えを文章に書くことは楽しい」という質問に、「当てはまる」が13%上昇し、「当てはまらない」と答えた児童の割合は17%減少した（図3）。

個別最適な学びについての意識調査には、「チームを作って話し合いをしながら書いてみたい。」「選べたからやってみたいと思った。」「性格について辞書でたくさん調べた。」という記述から、『問い』が生まれる授業サポートガイドに示されている「子供が思いや考えをもつ姿」と重なる。また、自由進度学習を取り入れたことについては、「一人でじっくり考えられたりしてよかった。」「自分のペースでできていいと思いました。」という記述もあった。また、「一人でやったり友だちとやったりできるし（学び方や）発表のしかたも自分が好きな物を選べるから楽しかった。」という記述があった（資料7）

個別最適で協働的な学びのある授業によって、教師主導の授業から学習者主体の授業へと転換し、授業改善を図ることができたのかを検証するためのアンケートを実施した。アンケートの結果から、「自分の考えが合っているか気になる」児童は16%減少した（図4）。アンケートの中には、気にならない層から気になるに移動した児童が3名いたことから、インタビュー調査を行った。教師の「授業の前は自分の考えが合っているか気にならなかったのに、なぜ気になるようになったのか。」という問いに児童Jは、「だって、難しかったから。いつもは国語がきらいだから考えてなかったけど、自分の想像したことだったから気になった。」と答えた。児童Jは、長文を読むことを苦手とする児童で、個別の支援として教師が教材文の読み聞かせを行った。また、個別最適的な学びとして自由進度学習を取り入れることで、教師が授業中に評価・支援を常時行うことができた。教師主導の授業では興味・関心がわかず考えることを放棄していた児童が、個別最適な学びを行うことで個別の支援を行うことができた。その他にも、「自分よりもっとすごい考えがありそうで不安」「みんなの考えが気になる」と答えた児童AとKは、一斉授業でよく発表をする児童である。一斉授業では、自分の考えを発表する二人は、自由進度学習になったこと

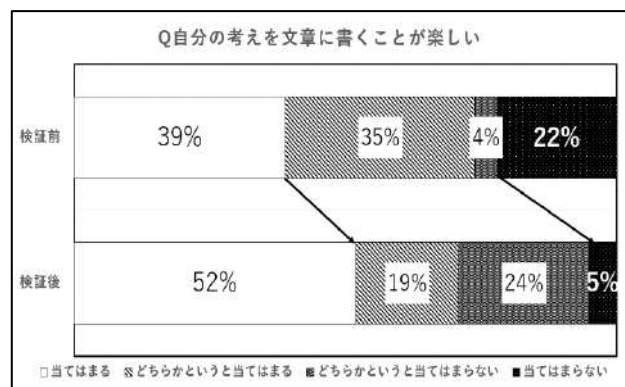
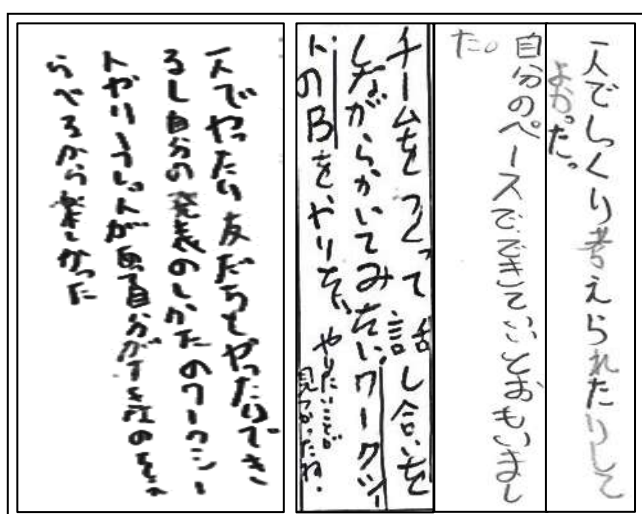


図3 検証前・後アンケート



資料7 振り返りの記述

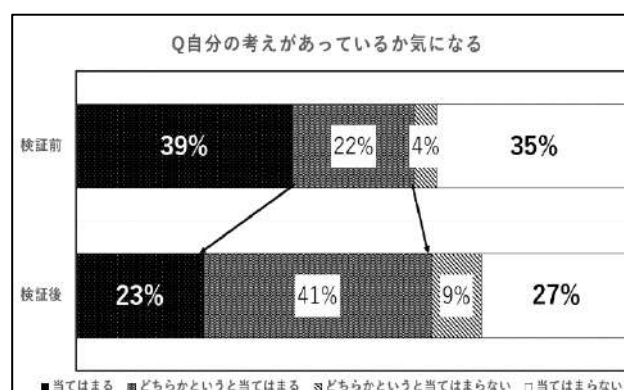


図4 検証前・後のアンケート

でこれまでよりも自分の考えの深まりを感じ、どう表現してよいのか不安を感じていたことが分かった。

(2) 協働的な学びの有効性

協働的な学びを児童の都合とタイミングでできるように、毎時間学び合いのポイント（資料1）を提示した。学習活動によって色々な目的の協働的な学びがあった。「1」豆太の行動や様子から気持ちについて自分の考えをもつ」では、場面ごとの豆太の気持ちや性格にぴったりの言葉を教科書と辞書を使って探していた児童がいた（資料8）。「2」場面同士を比べ、豆太の気持ちの変化について自分の考えをもつ」では、自分の考えと他者の考えを比較・分類していた（資料9）。「3」自分の考えをもち、その考えを相手に伝わるように表現する」では、相手を見つけて発表の練習やアドバイスをしていた（資料10）。協働的な学びの場面は、同じ児童同士だけではなく自然と輪をつくり学び合いをしていた。中には、一人でどんどん進めてしまう児童もいたが、教師が支援を意図的に促すことで協働的な学びに繋げることができた（表1 教師の役割・支援⑥）。児童の振り返りからも、「分からないことがあったら先生や友達にすぐ聞けたからよかった。」「自分たちでやったら難しかったけど色々な考えがうかんで楽しかった。」「友達と協力できたのでよかった。」と協働的な学びの良さについて書いている児童が24名中19名いた。



資料8 学び合い



資料9 考えを比較



資料10 共有

協働的な学びについての検証前・検証後アンケート、振り返りシート、インタビュー調査を基にして文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもち表現できたか捉えていく。協働的な学びでは、単元を通して学習活動の中に学び合いを取り入れた。検証前・後アンケートから、友達と考えを伝え合うことについて「よかった」（当てはまる、どちらかという当てはまる）と思う児童が12%上昇した（図5）。どんな時にそう感じたかの質問に検証前は、「友達と同じ考えだと安心する」と回答した児童が、「自分の考えと比べることができるから」「みんなの考えがよかったから」「ちがう考えだったとき」と変容していた。

これまでの答え合わせのための共有から、友達の考えを基に自分の考えを深めようとしている児童が増えたことが分かった。さらに、学ぶ場所も

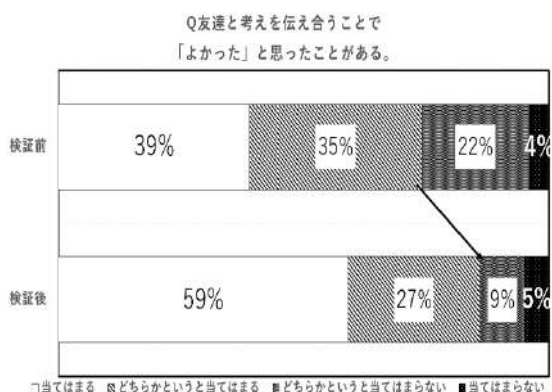
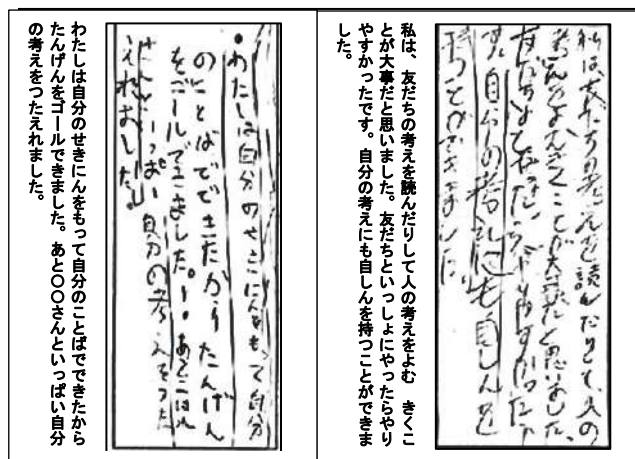


図5 検証前・後のアンケート



資料11 単元まとめの振り返り

児童に委ねた。これまでの学習にはなかった自由なスタイルに学級全体が協働的ではなく無法地帯化するのではないかと危惧していた。しかし、自分の学び方が決まると集中して学習を進めていたことが印象的であった。单元まとめの振り返りで、「私は、友だちの考えを読んだりして、人の考えを読んだり聞いたりすることが大事だと思いました。自分の考えにも自信を持つことができました。」「○○さんにいっぱい自分の考えを伝えられました。」と記述していた（資料 11）。

7 考察

本研究の目標は、文章を理解したことに基づいて自分の思いや考えをもち表現できるかについて実践研究を行うことであった。授業で児童が発した言葉に違和感をもち自分自身の授業観について疑問を持ったことがきっかけとなり国語科文学的文章における「個別最適で協働的な学び」の授業づくりを行った。

個別最適な学びを通して、児童に学び方や学習内容に合わせて場所や教材を選択できるということを示したことで、ワークシートやロイロノート等、自分に合った学びを選び文章を理解したことに基づいて考えを形成することができた。表現方法の選択をさせることで、ペープサートやリーフレット、ロイロノートを使って相手に伝えたいことがより詳しく自分の言葉で書くことができていたことから、自分の思いや考えをもち表現できたと考える。このことは、『問い』が生まれる授業サポートガイドに示されている「子供が思いや考えをもつ姿」と重なる。

検証前・検証後アンケート「自分の考えを文章に書くことは楽しい」について肯定的に捉える児童が増えたことから個別最適な学びを行ったことで、児童の都合とタイミングで学びを進めるができたことで楽しむことができ、学習意欲を高め、自分の思いや考えを表現したいと思う児童が増えたと考える。先述の長文を読むことを苦手とする児童 J には、個別の支援として教師が教材文の読み聞かせを行った。自由進度学習を取り入れたことで、興味・関心がわかず考えることを放棄することが多かった児童 J も、自分の学習活動の進み具合を他者と比較してではなく、安心して自分のペースで進めることができたと考える。また、先述の児童 A と K のについても考察を述べる。児童 A と K は一斉授業においてはよく発表をする児童である。二人のインタビューから、自由進度学習になったことで、これまでよりも自分の考えの深まりを感じどう表現したらよいか悩み、更に周りの児童の学習活動が活発になり自分の学習活動に不安を感じていたことも分かった。

協働的な学びを通して、児童に自分の都合とタイミングで学び合いができるということを示したことで、個別最適な学びから協働的な学び、分からないことを学び合い、お互いの考えを比較・共有することができた（資料 8, 9, 10）。

検証前・後のアンケート「友達と考えを伝え合うことで『よかった』と思ったことがある」児童 12% の上昇や、その理由にも「私は、友だちの考えを読んだりして、人の考えを読んだり聞いたりすることが大事だと思いました。自分の考えにも自信を持つことができました。」「○○さんにいっぱい自分の考えを伝えられました。」という記述にもあるように、協働的な学びを行うことで新たな見方や考え方に触れることができ、自分の思いや考えをもち表現することができたと考える。

VII 成果と課題

1 研究の成果

- (1) 児童に学び方、学習内容に合わせて場所や教材を選択できるということを示したことで、ワークシートやロイロノート等、自分に合った学びを選び、文章を理解したことに基づいて考えを形成することができていた。表現方法の選択をさせることで、リーフレットやペープサート、ロイロノート等を使って相手に伝えたいことがより詳しく自分の言葉で書くことができていたことから、自分の思いや考えをもち表現できていた。
- (2) 個別最適で協働的な学びを行うことで自分の考えを基に新たな見方や考え方に触れることができ、さらに自分の思いや考えを深め表現することができた。

2 今後の課題

- (1) 国語科で実践した言語活動を他教科でも行い、児童がより豊かに自分の思いや考えを表現する姿を目指し、今後も国語科の教材研究を深めるとともに教科を横断した活用に努めていきたい。

VIII 今後の展望

「間違っているかもしれないけど…」という児童言葉の言葉から、教師としての課題が見え、教師の授業観と授業改善について研究を進めてきた。

前述にもあるように導入で児童に学習の見通しをもたせたことで、これまでの学び方との違いに興味・関心をもっていた。「選択できる」「自分で学びを進める（自由進度学習）」ができるワクワク感に繋がり、授業への意欲が向上した。児童の振り返りにも「一人でじっくり考えられたこと」や「選択することで楽しかったこと」、「聞きたい時にすぐ聞けたこと」がよかったなど個別最適で協働的な学びについてのよさを書いていた。このことから、個別最適で協働的な学びは、児童の学習意欲に繋がったのではないかと考える。

個別最適で協働的な学びのある授業づくりにおいて「自由進度学習」を取り入れることで、児童の評価・支援を中心に机間指導を行うことができた。例えば、長文を読むことを苦手とする児童に教材文の読み聞かせを行い個別の支援することで、文章を理解し自分の思いや考えを書くことに夢中になり始めた。このような個に応じた指導を授業内に行えたことは、児童の学習に対する不安を少し軽減できたのではないかと感じた。

検証前・後アンケート「自分の考えがあっているか気になる」では、「当てはまる」と答えた児童は減少したものの、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる児童」を合計すると3%上昇していた。

「気にならない」が「気になった」に変わった児童へのインタビュー調査から「いつもは国語がきらいで考えてなかったけど、自分の想像したことだったから（自分の考えがあっているか）気になった。」という学習に前向きな言葉や「自分よりもっとすごい考えがありそうで不安」「みんなの考えが気になる」というような正解を求めている不安ではなく、より高い表現があるのではないかという自分なりの表現を目指すようになったと考えられる。

今回の検証授業の最後は、自分の思いや考えを表現する活動であった。発表している児童から「間違っているかもしれないけど…」という言葉はなく、以前より堂々と発表し友達の発表にも興味をもって聞くことができるようになったと感じた。この研究を通して、自由進度学習のよさに気付くことで自由進度にも一斉指導にもそれぞれのよさがあり、必要に応じて組み合わせた単元を計画し、学習者主体の授業を展開したい。今後は、この研究授業の中で見えてきた児童の様々な不安感を緩和するための、児童が自ら学びたいような教材の充実と、授業の中での教師の支援についての研究を進めていきたい。

-
- ¹ 奈須正裕 『個別最適な学びと協働的な学び』 P140 東洋館出版社 2021 年
 - ² 文部科学省 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び実現～（答申）』
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf (2022/10/19 アクセス)
 - ³ 沖縄県教育委員会 『令和4年度版「問い」が生まれる授業サポートガイド』 P42
沖縄県教育委員会義務教育学力向上推進室 2022 年
 - ⁴ 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 P108 東洋館出版社 2018 年
 - ⁵ 上江洲朝男 「指導講師検討会」 2023 年
 - ⁶ 吉野竜一 こどもにゆだねる国語授業「自由進度学習」の取り入れ方・進め方 明治図書出版 2023 年
 - ⁷ 奈須正裕 『個別最適な学びと協働的な学び』 P141 東洋館出版社 2021 年
 - ⁸ 全国国語授業研究会・筑波大学附属小学校国語研究部
『小学校「個別最適な学び」と「協働的な学び」をつなぐ国語授業』
東洋館出版社 2022 年